

アイヌ語で「広場」の意味

ミンタラ

アイヌ語ネコンネコン

「種まき」って何て言うの？

い ふりかんないとようらちよう とようらしょう ねん わきだ さ すけ
胆振管内豊浦町・豊浦小6年 脇田佐助さん



北原：瀧口さんちは畑やる？
関東とかだと真冬でも畑やっててびっくりするさ。



瀧口：何年か前に野菜作ったよ。
ボルシチを作りたいくてピーズの種をまいたら、芽が出たとたんにネ

キリムシに切られたさ。昔のアイヌはどんな風に畑やってたかな。

北原：樺太の方は、明治時代になるくらいまで畑やらないようにしてたんだって。地面はカムイが作ったものだから、キズをつけたりしないって。北海道では8世紀くらいには穀物を作ってたっていうから、アイヌ文化もいろいろださね。

瀧口：そうね。そういえば「カッコーが鳴いたら種をまく」って聞いたことあるね。十勝では、種まきを「タネ チャリ」っていうみたい。種は日本語で、チャリが「まき散らす」。
北原：江戸時代の巻物にも「ピ チャリパ」って書いてあるよ。「チャリパ」は、今の書き方だったら「チャラパ」だろうね。いっぱ

「○○ってアイヌ語で何て言うの？」。小学生から寄せられた質問に、アイヌ民族の2人があーだこーだいうコーナーです。考えた言葉は公式でもなんでもなく、結論もとくに出しません。ネコンはアイヌ語で「どう（言うの？）」という意味です。

ムンキ エユプキリ
むぎ たね
(麦の種をまく)



マメ クエトイタ
わたし まめ
(私が豆をまく)



題字・イラスト 小笠原小夜



※サトイモは他の野菜かもしれません

北原モコットウナシ 1976年、東京都生まれ。ルーツは樺太（サハリン）。北海道大学教授。むかしのアイヌ民族の暮らし、特に言葉、音楽、文学、宗教のことを調べている

瀧口夕美 1971年、釧路市生まれ。阿寒湖畔のアイヌコタンで育ち、幼少期からアイヌのおどりなどを習う。現在は京都市在住で、編集グループSUREという出版社の代表